

＜スピエネット連続フォーラムの日時・内容＞

全4回：主催・共催・協力団体の会員8,000円、一般12,000円

各回：主催・共催・協力団体の会員2,500円、一般3,500円

★フォーラムⅠ：2014年10月4日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

“フィールド”と“生命場”

・「“ゼロ・ポイント・フィールド”とは何か」 神尾 学（ホリスティック・リーディング研究所代表）

VMからLMへの架け橋となるのが、リン・マクタガートの『フィールド 響き合う生命・意識・宇宙』（インターシフト）です。多様な先端科学の分野で同時並行的に起きてきたパラダイム・チェンジに共通する本質を、“ゼロ・ポイント・フィールド”という概念で整理し、世界中に衝撃を与えた本書の全体像をVMと比較しながら紹介します。

・「“生命場（ライフ・フィールド）”とは何か」 山本 忍（神之木クリニック院長）

“生命場（ライフ・フィールド）”を提唱したエール大学の解剖学教授ハロルド・サクストン・バーによる『生命場の科学 みえざる生命の鑄型の発見』（日本教文社）をとりあげ、身体の鑄型であるエーテル体の科学的な研究について解説します。バーの研究は、多くの書物に引用され続けている生体エネルギー研究の名著として知られています。

○スピエネット対話＜ダイアログ＞

神尾 学×山本 忍

第1回目として、フィールド、場を巡る広い視点からダイアログを行い、2回目以降につながるように、立体的に理解を深めていきます。

★フォーラムⅡ：2014年12月6日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

“形態形成場”と“生体マトリックス”

・「“形態形成場”とは何か ～生命のニューサイエンス」 川畑伸子（NPO法人サイモントン療法協会副理事長）

分子や身体や社会が形成されるのは、遺伝子やタンパク質だけで起こっているのではなく、“形態形成場”という時間と空間を超えて働く作用があるとする、英国の生物学者ルパート・シュルドレイクの説を解説します。この作用により、ある程度の人が達成するとほかの人も容易にできるようになるとされ、テレビ実験もされています。

・「“生体マトリックス”とは何か ～エネルギー医学の原理」 降矢英成（赤坂留池クリニック院長）

「マトリックス」という用語は、母体という意味もありますが、“生体マトリックス”と呼ぶ場合には「結合組織」を中心とした細胞骨格構造を指しており、単なる支持組織ではなく、規則正しく配列している結合組織の構造は液晶半導体として超高速伝達を行っているというアメリカの研究者ジェームスL・オシュマンの説を解説します。

○スピエネット対話＜ダイアログ＞

川畑伸子×降矢英成

身体に関するエネルギー的な知見である形態形成場と生体マトリックスを巡って検討を進めていきます。

★フォーラムⅣ：2015年4月4日（土）13：30～16：45（会場：連合会館501号室）

“ボディフィールド理論”と“万物の統合理論”

・「ラズロの“アカシック・フィールド”と“万物の理論”」 神尾 学（ホリスティック・リーディング研究所代表）

“フィールド”という興味深いものについてアービン・ラズロも「アカシック・フィールド」という概念を提唱しています。そこには「アガステアの葉」で知られるアカシック・レコードも収められているとされ、まさに宇宙の意味とも関連してきます。ラズロが提唱する物理学的な“万物の統合理論”も合わせて解説します。

・「ウィルバーの統合理論からの“万物の理論”」 久保隆司（日本ソマティック心理学協会会長）

統合的な万物の理論といえば、インテグラル（統合）理論を提唱しているケン・ウィルバーを抜きにすることはできません。ウィルバーは、万物の理論とは、物理学やシステム理論などの外面的な領域にのみ還元されるべきものではなく、人間の意識や文化など内面的な領域をも含めた、インテグラルな視点から世界を捉える必要性を強調しています。

・「NES HEALTH研究所の“ヒューマン・ボディフィールド理論”」 寺岡文織（NES HEALTH JAPAN）

このDVD『ザ・リヴィング・マトリックス』を製作したのはイギリスのNES HEALTH 研究所です。その創始者であるピーター・フレーザーは長年の研究により、人間を構成する磁気フィールドの中のエネルギー情報の構造とシステムを解明し、ヒューマン・ボディフィールド(HBF)と名づけました。その概念と実際のシステムを紹介します。

○スピエネット対話＜ダイアログ＞

神尾学×久保隆司×寺岡文織

最終回はフィールドをさらに深めて実際的なヒューマン・ボディフィールドの概念について検討していきます。